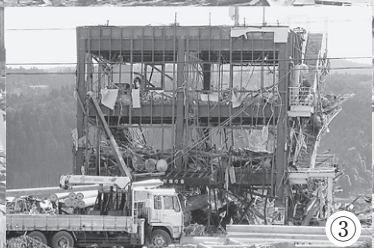




① 大槌町役場庁舎。津波の直撃を受け多くの職員が亡くなっている。時計は午後3時30分で停止。「先遣隊メンバーは思わず黙祷を捧げた」



② 陸前高田市の様子。ほぼ壊滅状態で、何もない状況。



③ 南三陸町防災対策センター「津波に注意してください」と呼びかけていた職員をはじめ40人以上が亡くなった。「先遣隊は町にガソリンスタンドが無くなってしまったので一番欲しい物資は、ガソリン携行缶と聞いた」

せんけんたい 先遣隊の日程

5月24日	宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市、大船渡市
5月25日	岩手県大槌町、釜石市
5月26日	宮城県女川町、南三陸町、石巻市、東松島市、仙台市
5月27日	茨城県北茨城市

東日本大震災の被災地復興に向けて

で今、私たちに できること

3月11日午後2時46分。三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、巨大津波が東日本の太平洋沿岸を襲いました。町では、東日本大震災の被災地を支援するため、5月24日から27日の4日間6人の職員を先遣隊として現地に派遣しました。

今回の職員派遣は、東日本大震災の被災地支援を効率良く行うための現状把握とボランティア活動の実施が主な目的でした。現地に入り、被災地の現状を目の当たりにしてきた職員の声をお届けします。

気仙沼市でのボランティア

被災地でのボランティアは、ボランティアセンターで受付後、担当者が呼びかけを行い、拳手で仕事の配分が行われます。私たちは、掃除を担当し、被災したアパート一階部分の家財道具などの撤去作業を行いました。津波によって泥だらけになった食器棚やガスコンロ、洗濯機など

を搬出しました。隣の家を見ると付かずの状態の家財道具などが散乱していました。

被災地に入って感じたこと

気仙沼市に入って、テレビの映像だけではわからない部分が目に飛び込んで来て、しばらくの間は、みな声が出ない状況でした。火災や交通事故ならば一か所だけが悲惨な状況になっていますが、自分の前後・左右が全て同じような状況で、これだけ広範囲で被害を受けている光景を見るのは初めてでした。また、車外に出ると、魚・ヘドロ・油の入り混じった強い臭いがして驚きました。



- ④女川町の漁港付近の様子
- ⑤陸前高田市の農産物直売所で情報収集。「先遣隊の一人がゆずの産地であることを聞き取る。今後、本町とゆずを通じた交流ができればいい」
- ⑥気仙沼市でボランティアを行う先遣隊員。
- ⑦東松島市の被災状況を熱心に聞き取る先遣隊のメンバー。
- ⑧4日間に渡り被災地の状況把握に努めた先遣隊員6人（右から澤田、田辺、岩上、一人おいて、小室、中里、長谷川隊員）が井上町長（写真中央）に状況報告を行った。

被災地職員の声を聞く

陸前高田市では、山林の中に瓦礫^{がれき}があつたので、撤去した瓦礫の処分場だと思っていました。しかし、実際は、ここまで津波が押し寄せていました。山林を抜け、目の前が開けた段階で、車中から「うわっ」という声があがりました。そこには、何もない広大な被災地が広がっていたのです。一般の人が全くいなくて、自衛隊や警察が行方不明者を捜索している状況でした。大槌町や釜石市も同様で、とても市役所に行つて話を聞ける状況ではありませんでした。

は水の供給で、取水^{しづみ}井戸に塩水が入つてしまひ水道の復旧率は1パーセント。飲料水はある程度確保できているものの、入浴やトイレに使用する水が不足している状態であると聞きました。

東松島市では、ゴミとして瓦礫を処理した場合、153年分の量になることや仮設住宅が8割完成していることなどを聞きました。今後の課題として、「職員は仕事を選べる状況ではなかつたので、遺体安置所などを担当した職員のケアも落ち着いたときに必要になるだろう」と話してくれました。

大船渡市では、震災時に職員の手が不足していたので、退職予定者の再雇用を行っています。物資はほぼ足りていて、今後のことを考えると義援金のほうがありがたいと話してくれました。

女川町は、8割以上が漁業で生計を立てているので、漁業をするために女川を出て行く人が増えていきます。高齢化率は34パーセント。人口は1万人で、今後、人口の減少が心配だと話していました。

南三陸町では、職員40人が津波で亡くなり、全国から1000人の応援を受けています。一番困っているの

どの自治体の職員も、とても親切に対応してくれて、被災直後には話せなかつたことも、今だから話せるとして、せきを切つたように話してくれました。なかでも、南三陸町の職員は、「復興につながるのならなんでもやる。仮に無駄だとわかっていてもやる」と言っていました。その言葉が特に印象的で心に残っています。

今、私たちにできることは、この震災を忘れずに、何らかの支援を続けていくことだと思います。そして、一番必要とされているのが、人的支援であると感じました。

Interview

インタビュー



人形劇団オツペ代表
松川 広さん
Hiroshi Matsukawa

私たちは、現地の子どもたちと一緒に200食分の白玉だんごづくりを行いました。人形劇は、通常の3分の1ほどの舞台を用意して5つの演目を40分ほどかけて上演しました。はじめは、無表情だった子どもたちも後半には笑顔になり、それを見ていた親たちも楽しそ

うでした。人形劇団オツペでは、年一回定期公演を行っています。今年も、定期公演にけるエネルギーを被災地支援にあてるため中止。これから30人ほどの劇団員が交代で被災地支援に行く予定です。

私は、東日本震災の被災地に行きたい。でも、どのようにして行けばいいかわからないという葛藤のなかで、悶々とした日々を送っていました。そんな時に、私の知人が特定非営利活動法人ワーカーズコープで野菜や衣類を集めて現地に届けたり、炊き出しを行う活動を行っていたため、その活動に同行させてもらいました。

6月4日、私が行った場所は、石巻市の大門町という地区でした。2階建ての木造住宅が立ち並ぶ港町で、一見被災してある様子がありませんが、どの家も1階部分が津波で破壊されていました。最近、ようやく水道が利用できるようになり、排水が砂で埋まり、排水でき

ない状況のため、寝る場所が確保できているだけの状況です。週1回自衛隊の施設で入浴し、歩いて30分ほどの場所にある避難所に昼食を食べに行きます。帰りにもらってきたおにぎりやパンが夕食や朝食になります。こんな状況ですから、こちらから持ち込んだ野菜や夏物衣類、殺虫剤などが、瞬間に無くなりました。

炊き出しと人形劇

私は、人形劇団オツペの仲間3人

「人形劇で、子どもたちの笑顔を

引き出す活動を展開」

できることをやる」

炊き出しが終わり、広い道を5分ほど歩き、路地へ入ると、そこはガレキの山で、全く手付かずの状態でした。大きなハエが飛び交い、目がチカチカするほどの強い臭気で、5分ほどしかその場にはいられません。被災地には、まだこんな状況の場所がたくさんあります。私たちにできることは、まだまだたくさんあるはず。この災害を忘れずに支援を継続していくことが大切だと思います。



埼玉医科大学病院が「東日本大震災関係報告会」を開催

6月21日、埼玉医科大学病院本部棟第3講堂で東日本大震災関係報告会が開催されました。埼玉医科大学病院では、これまでに第1次から第3次まで、医師団派遣を実施してきました。

派遣チームは、宮城県気仙沼市に26か所ある避難所で最大の気仙沼市体育館（通称K-WAVE）で現地の人の診療を行いました。『避難所であって病院ではない』という認識のもと、診療ブースをダンボールで区切ったり、幟旗を設置して診療中は旗を上げるような工夫をしたことなどが報告されました。また、4月7日に発生した震度6の余震では、立ってられない状況を実感したこと。海に近い診療所が被災し、被災した医師がギリギリの状況で診療を続けていたことが判明したという報告がありました。

このあと、避難所の衛生管理や要介護者などの在宅支援を

Interview

インタビュー



高福寺副住職
萩原 裕史さん
Yasushi Hagiwara

僧侶の団体7人（埼玉県仏教青年会）で福島県いわき市の被災地に入りました。場所によっては、火災と津波の二重被害を受けていますが、津波の被害を受けなかった地区は、コンビニなども営業しています。ボランティア活動には色いろあり、私は側溝清掃などの瓦礫撤去活動のほか「行茶」という傾聴活動を行っています。

側溝清掃は、「こりゃあ無理だろう」と思うほど、ほとんど進みませんが、100メートルくらいこの区間を15人ほどで力を合わせて清掃したところ、一日で終わることができました。私は、このとき少しづつでもやれば、終わるんだなと思いました。行茶は、避難所にお茶やコーヒー

を持って行って、皆さんの声に耳を傾ける活動です。この時は、10か所程度の避難所を回りましたが、行政に対する不満が多く聞かれたこと。また、「うちの旦那、成仏してますかね」といった、他人には相談しづらい話などがありました。

元気をもらって来ないで

被災地の人は、皆元気です。でも私には「お元気そうですね」という声かけにとまどいを感じます。小高

「がんばらないとやっていけない。その状況を見るのがつらい」

いところにあるお寺に何うと、おばあさんが一人で住んでいました。周辺の住宅は全て流失していて「私がんばらない」と言っていました。がんばらないとやっていけない状況を見るのがつらかったです。おばあさんは、お寺に来てくれた人に必ず食事を出すそうです。そういうことで、何とか今の自分をギリギリのところでは支えているのではないのでしょうか。

避難所の人もそうでした。色んな人が現地に入って、元気をもらって帰って来ると話します。しかし、私は「元気をもらって来ないで。お返ししてきて」と話しています。現地の方は、来てくれた人に対して元気に振る舞い、気を遣ってくれる人もいます。

津波被害を経験していない私たちには、被災した人の気持ちを理解することは到底できません。そのことに対して、何をすれば元気になるんだらう。喜んでもらえるんだらうという答えは、未だに私にはわかりません。

行くだけが支援じゃない

ボランティアの話をすると「行っただって、すごいね！ すごいね！」といわれます。行くことだけがすごいのではなくて、行かない人たちも毎日どんなことでも、ひとつ一つ一生懸命こなしていけば、そのことが手助けになる。行かなくても何かの役に立っているということに気付いてほしいです。行けば「どんなことでも」役に立つことは事実ですが、行かなくてもできる支援はあるはずなのです。



派遣チームのメンバーに表彰状が贈呈された



活動報告を行う看護師と薬剤師



行った看護師や、患者さんの話に耳を傾け、服薬状況を確認してお薬手帳を作成したり、診療中の医師に薬剤に関して補助を行った薬剤師の報告などがありました。

被災地の復興に役立たないものなんてない！

被災地のことを忘れない

マスコミなどで連日伝えられている被災地の現状を伝える報道が、徐々に少なくなりつつあります。しかし、被災地では、現在も多くの人々が避難所生活を続けていて、今だに5,000人もの方不明者がいます。そのことを忘れずにいたいものです。



憶

被災地周辺の名所・旧跡を旅行する

岩手県「平泉の文化遺産」がユネスコの世界遺産に指定されました。また、秋田県の白神山地も世界遺産です。被災地周辺の観光地は、観光客の減少に悲鳴を上げています。ぜひ、すてきな景勝地を見に訪れてみてください。



旅

義援金を寄付する

被災地の行政担当者から町の先遣隊が聞き取った情報では、一番必要なものは人的支援、義援金という回答がありました。被災地支援に必要な義援金にご協力ください。義援金箱は、役場1階各課窓口、中央・東公民館、図書館、保健センターに設置してあります。

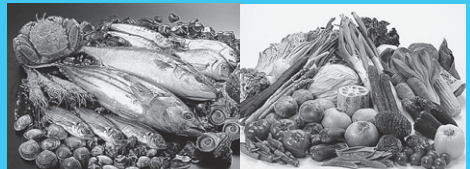


金

買

被災地周辺の物産を購入・販売する

東日本大震災を機に、地元での販売が中心だった食品メーカーが販路を全国に拡大する動きが進んでいます。大手百貨店のギフトカタログにも掲載されるようになり、物産販売フェアなども各地で開催されています。



委員会では、事務局から震災における本町の被害状況と被災地に対する対応についての報告が行われ、今後の復興支援についての検討が行われました。

今後の復興支援について

委員会は、3月11日に発生した東日本大震災の被災地に対する復興支援を検討することを目的として設置されました。主な任務は、①被災地に対する支援、②被災者に対する支援、③その他震災に関することです。委員会では、井上町長が委員長、平林区長会長が副委員長に選任されました。

被災地支援では、被災地ボランティア経験者の委員が、陸前高田市に4・5・6月の3回被災地に入ったが、復興がほとんど進んでいないこと。物資は届いているものの、人の手が足りないことなどが報告され、一人でも多くの人が入れるように、こういうプロジェクトを通じて進めてほしいと訴えました。



委員会の様子

東日本大震災の被災地復興に向けて
**オール毛呂山
で復興支援**
6月23日、毛呂山町東日本大震災プロジェクト検討委員会（以下「委員会」と表記）が設置されました。多くの市民の声を活かし、「オール毛呂山」で復興支援を行うという考え方に基づいて、今後の支援のあり方などを議論していきます。

ボランティアという選択！

<災害ボランティアセンターの連絡先>

下記の情報は、全国社会福祉協議会のホームページに掲載されています。<http://www.shakyo.or.jp> (7月9日現在)

自治体名	電話番号	注意事項
岩手県	宮古市 090 (4478) 3984	個・団7日前連、車テ否
	おおふなと大船渡市 090 (7320) 6504	個否、団連、車テ否
	りくぜんたかた陸前高田市 090 (2852) 9736	個否、2人以上連、車テ否
	かまいし釜石市 080 (2802) 2511	個・団連、車テ否
	おおつち大槌町 080 (3518) 8490	個否、5人以上団連
	山田町 090 (8353) 0032	個否、5人以上団連
	野田村 080 (5949) 8093	個・団連、車否、土日休
宮城県	けせんぬま気仙沼市 080 (5949) 7475	個・団連、車テ可
	南三陸町 0226 (46) 4088	個・団連
	いしのまき石巻市 0225 (23) 6017	個否、団連
	東松島市 0225 (83) 5001	個・団連
	仙台市 022 (231) 1326	個・団連、車テ否
福島県	山元町 080 (5949) 7720	個・団連、水休み
	しんち新地町 0244 (62) 5577	個・団連、車テ否、木休み
	みなみそうま南相馬市 0244 (24) 1877	個・団連、車テ否
いわき市 0246 (22) 5501	個・団連	

※注意事項の略号は次のとおりです。連=事前連絡必要 団=団体受入可能 個=個人受入可能 車=車中泊 テ=テント泊

災害ボランティアに行こう！

全国社会福祉協議会のホームページに災害ボランティアセンターの連絡先などが掲載されていますので、募集状況をご覧になり、注意事項を守って参加してください。

<災害ボランティアに参加する際の注意事項>

- ①事前に災害ボランティアセンターへ連絡する。
- ②水害ボランティア作業マニュアル <http://www.saigaivc.or.jp/> 水害ボランティア作業マニュアル / を参考に準備する。
- ③ボランティア活動保険に加入し、被災地のボランティアセンターで受付カードを記入して受け付けする。
- ④所属する団体・グループなどの腕章をつけ、その人がボランティア活動中であることが識別できるようにする。
- ⑤作業終了後、怪我などの有無について活動報告を行う。



災害ボランティアセンター



水害ボランティア作業マニュアル



委員会のメンバーによる熱心な議論が行われました。



これらの意見を踏まえ、委員会主催による被災地支援を継続的に実施することとしました。

また、復興支援グッズの販売や産業まつりなどのイベントで復興支援のための義援金を募る事業、被災地の物産を販売する事業のほか、町内の避難者支援として、生活物資の提供・困りごと相談・町内イベントへの招待なども実施していく予定です。

このほか、被災地の現状を見てきた人が、町内には大勢いると思います。その人たちの体験を発信する場が確保できないかという意見に対して、広報紙や町ホームページはもとより、役場1階ロビーに掲示していくこととしました。

東日本大震災復興支援事業一覧表

日時	名称	場所	内容
7月22日(金)~23日(土)	東日本大震災ボランティアツアー	岩手県陸前高田市	役場職員互助会で職員を対象としたボランティアツアーを実施。
8月7日(日)	奥武蔵ウルトラマラソン大会震災復興支援事業	総合公園	被災地で活動する町民ボランティア活動を支援するため、支援金付ポロシャツを販売するとともに支援金募集も行う。
8月12日(金)午前9時~午後1時	福島県産の物産展震災復興事業	J Aいるま野毛呂山支店	福島県産の農産物販売および義援金、義援金付ポロシャツの販売。
9月3日(土)午後4時~	サマーフェスティバル in もろやま震災復興支援事業	総合公園	町内に避難されている方がたに招待状を送り、夏の一夜を楽しんでいただく。
9月4日(日)午前9時~午後3時	芸能発表会震災復興支援事業	福祉会館	被災地で活動する町民ボランティア活動を支援するため、支援金付ポロシャツを販売するとともに支援金募集も行う。

※9月4日以降の事業については、広報紙などを通じて随時お知らせします。

なお、町民の皆さんを対象としたボランティアバスツアーも随時計画していくこととしました。

被災地の復興支援につきまして、町職員はもとより、町民の皆さんのお借りして、継続的に実施していくことが大切と考えていますので、今後ともご協力をお願いします。